



ほくえい

<http://www.hokuei.obihiro.ed.jp>

令和4年11月22日

- 思いやりのある子
- たくましい子
- 助け合う子
- よく考える子
- 進んでやる子

発行者 校長 池下栄里子

全国学力・学習状況調査の結果から①

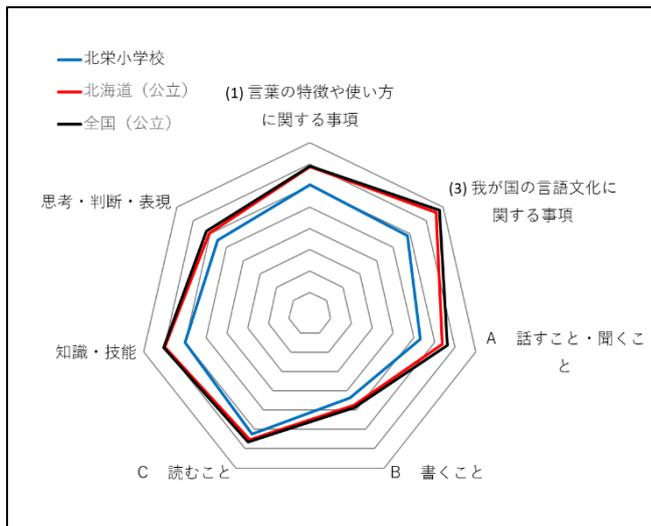
4月に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果をお知らせします。学校では、調査結果をもとに授業改善に努めて参りますが、6年生の調査結果から見える「北栄小の子どもたちの姿の一端」を保護者のみなさんと共有し、ご家庭との連携もさらに深めていきたいと考えています。

【国語】

全ての領域、観点において全国を下回る結果となりました。

我が国の言語文化に関する事項（漢字の書き取り問題）については、全国平均を大きく下回る結果となりましたが、「親しむ」という漢字の書き取りについては、全国平均を上回る結果となっています。

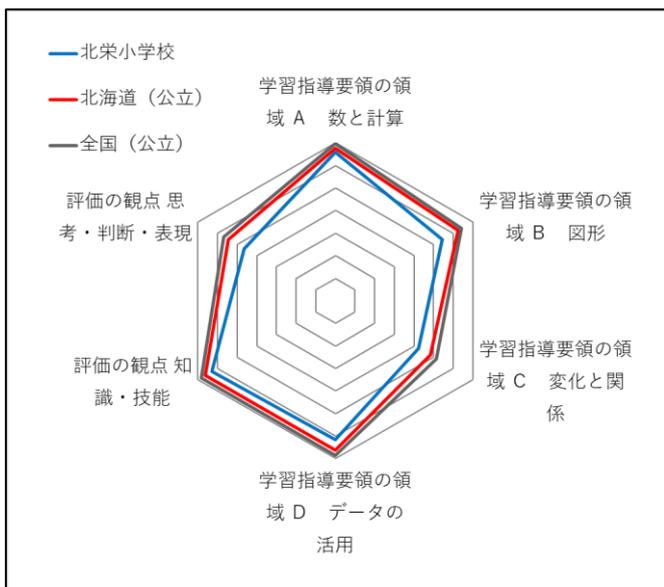
全体的に、全国との差は縮小傾向にあり、日常の取組が力として身に付いてきたことがうかがえます。昨年同様、「話すこと・聞くこと」に課題が見られていますので、日常の授業の中での伝え合う活動に力を入れ、子どもたちの協動的な学びの充実を図る必要があります。また、読書量の少なさも昨年同様、本校の課題でありますので、読書習慣の定着に向けた取組を学校・家庭で連携して推進する必要があります。



【算数】

全ての領域、観点において全国を下回る結果となりましたが、各領域における全国平均との差は、縮小傾向にあります。昨年度までの課題であった、「数と計算」領域では、半数の問題で全国平均を上回るなど、成果が見られています。

昨年同様、「図形」領域での課題が見られており、授業改善も含め全校での取組が必要となります。また、記述式問題への課題が見られており、校内研修と連携した取組を推進し、自分の考えを言葉に表出し、文章化する力の育成を目指します。



※グラフは国・算ともに、全国を100と見たときの全道・学校の状況

【質問紙調査から】

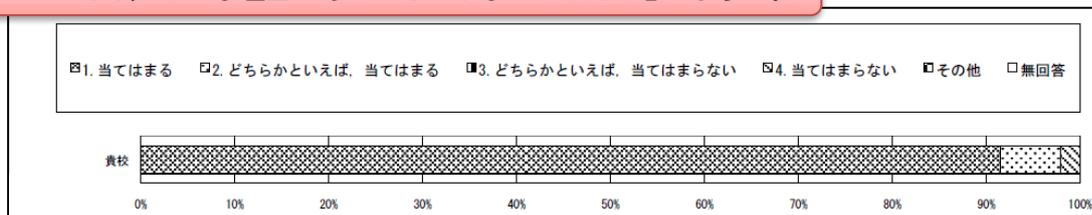
全国学力・学習状況調査では、今年度は国語、算数の学習調査のほか、学習に対する興味・関心や、学習、生活習慣、規範意識などについてアンケート形式で答える、「質問紙調査」が実施されています。このうち、今回の調査から見られた特徴的な側面（プラス面）についていくつかお伝えします。

肯定的（プラス）な項目

- ・朝食を毎日食べる
- ・自己肯定感
- ・良さを認めてもらえる
- ・正義感
- ・人の役に立ちたい
- ・学校が楽しい
- ・授業がわかる
- ・道徳授業への取組
- ・算数の問題にあきらめずに取り組む

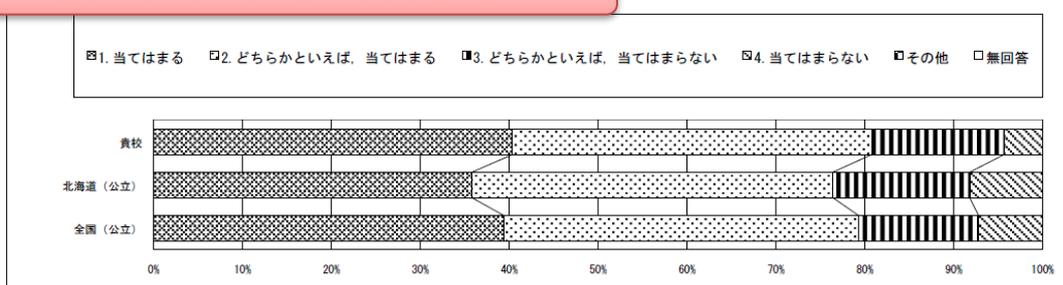
学習への関心
規範意識
自己有用感

★いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

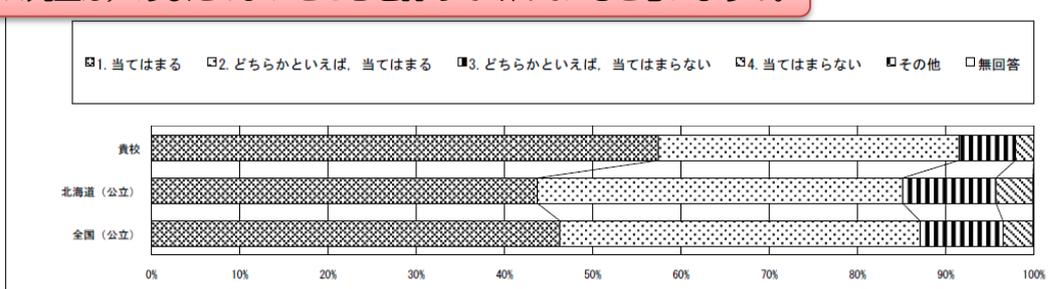


⇒このグラフから、本校6年生児童の正義感の強さが見てわかります。これからも、道徳や学級活動等あらゆる機会を通し、子どもたちの心情の育成に努めていきたいと考えます。

★自分には、よいところがあると思いますか。



★先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



⇒この2つのグラフから、本校児童の自己肯定感の高さや自己有用感の高さを見て取ることができます。「教師が児童のよさを認めてくれる」という質問に、「当てはまる」と回答した児童は58%おり、全国より10%以上高い結果となっています。これらが、「自分にはよいところがある（自己肯定感）」の高さにつながっていると考えられます。これからも、学校では教育活動の様々な場面で子どもたちのよさを認め、子どもたちの自己肯定感を高め、チャレンジする気持ちを高めていきたいと考えています。
※次号では、質問紙から見られるマイナス面と今後の取組についてお伝えしたいと思います。